

ダイバーシティ(多様性)は無量大

性の多様性を尊重するようにつとめよう

20年近く前、女子中学生がどうしても自分が女性であることを受け入れることができず、周囲の無理解のなか、苦悩しながらも成長していくというテレビドラマがありました。当時は衝撃的な内容であると大変な話題になりました。

今でこそ「LGBT」や「性的少数者(セクシャルマイノリティ)」という言葉が知られるようになってきましたが、十分に認知されているとは言えないのではないのでしょうか。基礎的な知識として言葉の意味を押さえておきたいと思えます。

【L】レズビアン(女性として女性を好きになる人)
 【G】ゲイ(男性として男性を好きになる人)
 【B】バイセクシュアル(性別にかかわらず恋愛対象になる人)
 【T】トランスジェンダー(身体的な性別と自認する性が一致しない人)

と定義されています。冒頭で取り上げた女子中学生は、トランスジェンダーであったということです。なお、ドラマでは性同一性障害と書かれていましたが、この言葉は、現在ではトランスジェンダーの方全般を指す言葉としては用いられていません。また、自分の性について決められない人をクエスチョニングと呼ぶなど、この他にもいろいろな定義もあります。

現在、日本のLGBTを含む性的少数者の割合は、5〜10%(電通ダイバーシティラボ2015年調べ)と言われています。この割合は、左利きの人や血液型がA型の人との割合に近いのです。

さらに「性」の見方を、①体の性(戸籍上の性)②心の性(性自認)③好きになる性(性的指向)④表現する性の四つの観点から見ると、多様な性の在り方が存在します。

例えば、一般的に男性の場合は、①②④が男性で③が女性です。この中で、③が男性の場合

合はゲイとなります。②がはつきりしていない場合はクエスチョニングであり、③が両性である場合はバイセクシュアルということになります。また、どの項目においても0か100ではなく、どちらかと言えばというような場合もあるかもしれません。

このように見ていくと、性のありようは十人十色であり、①④の掛け合わせはグラデーションも含めて無限にあると考えられ、人間を男女二つのカテゴリーだけに当てはめるのは不可能なのかもしれません。

したがって、「マイノリティを認める」というのではなく、「自分も含めた性の多様性を尊重し合う」と考える方が自然なのではないのでしょうか。

(参考) 渋谷区総務部男女平等ダイバーシティ担当課長 永田竜太郎氏の講演より)

市人権推進課(教育庁舎1階)
 〒 32-2122
 FAX 33-3525
 Mail:jinkensushin@city.komatsushima-tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇(349) 松並敦子・選

「元氣かね」は合言葉なり古里に帰りし友との電話よもやま
 江田町 深田 伴子

盆来れば今年も詣る先祖墓「よう来た、よう来た」と祖父の声する
 横須町 三宅 敏恵

生い茂る浜の林に陽の差して煌めく光に今朝の幸せ
 横須町 福島 夢栄

西さんの計報を知りしその朝に照子さんの短歌広報に載る
 田浦町 太田カツミ

豊作の稲を刈りゆくコンバイン山と積み込む軽トラ重し
 赤石町 田原トシ子

病院のベッドにまどろめば亡母の現れり何から話そう八十余年の空白
 櫛淵町 松下 玉枝

さすがだとりハビリ効果身に覚ゆ骨折の足歩み始めり
 神田瀬町 大西カヲル

テレビかけ退屈な時チャンネルは高校野球に夢中になりて
 坂野町 橋本千代乃

助詞ひとつ大事にうたを詠むように話しことばも作品であり
 横須町 山崎 泰子

酷暑つづき外出禁止の幾日を歌詠む扉少し開けたり
 立江町 湯浅かや子